

第1回北海道次世代半導体産業立地推進連携会議 議事録

日時：令和6年3月28日（木）

16：30～17：10

場所：本庁舎3階 知事会議室

【土屋副知事】

皆さん、今日は年度末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。これより、北海道次世代半導体産業立地推進連携会を議開催させていただきます。それでは早速議事に入ります。議事1の北海道半導体デジタル関連産業振興ビジョンについて経済部長から説明させていただきます。

【中島経済部長】

資料1-1をご覧ください。概要版を基に説明させていただきます。まず「第1章 策定の趣旨」をご覧ください。本ビジョンはラピダス社の立地を契機としまして、半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を実現するとともに食や観光、再エネなど本道の強みである産業振興とあわせて、本道経済全体の成長に結びつけていくため、オール北海道で目指す指針として策定をしたものでございます。計画期間を来年度から10年間といたしまして、当初5年間を重点期間としております。

次に2ページをご覧ください。「第4章 めざす姿」でございます。「次世代半導体をトリガーに世界に挑む北海道」というキャッチコピーを掲げまして、「1 実現に向けた全体像」に書いてあるとおり、まずはラピダス社のプロジェクトを成功させることが何よりも重要として、半導体の複合拠点を実現し、すべての産業へのDX化を進める「北海道デジタルパーク」を展開する中で、その効果を道央圏のみならず、全道に波及させていただくこととしております。こうした考え方のもと、「3 複合拠点の実現」に向けましては、「半導体関連産業の集積」、「イノベーションの創出」、「人材の安定供給」という三つの方針を掲げまして、さらに次のページ「全道への効果の波及」に向けましては、「デジタルの好循環の全道展開」と、「地域の付加価値の向上」によりまして、四つ目の方針といたしまして、「地域経済の活性化」、こちらを図っていきたいと考えております。

「第5章計画の推進管理」でございますけれども、今後の指標といたしまして、「半導体関連企業の出荷額」や「半導体関連企業による道内総生産への影響額」など七つの項目の目標値を設定いたしまして、進捗状況につきましては、定期的に把握して公表していくこととしております。

今後、様々な機会を捉えて、ビジョンの内容を説明し、道民の皆様方のご理解、共感を得ながら、本ビジョンの下、各般の施策を戦略的に推進いたしまして、道央圏のみならず、本道全体の経済活性化と持続的発展につなげてまいります。以上でございます。

【土屋副知事】

はい、ありがとうございました。ご意見ご質問等については後程一括でお受けしたいと思います。次に、議事の2「令和5年度を取組状況及び今後の取組の方向性」について、まず経済部長から説明いたします。

【中島経済部長】

資料2-1をご覧ください。まず、令和5年度の主な取組についてです。資料の左側に書いてありますとおり半導体関連産業集積促進や、人材育成等に向けた取組を行ってまいりました。①半導体関連産業の集積促進に向けては、半導体関連の道外展示会への出展、台湾の半導体関係団体などを訪問して、投資環境のプロモーションを行ったほか、②道内企業の参入促進に向けましては、ビジネスマッチングセミナーなどを実施しました。その下、③道民の皆様方への理解の促進に向けましては、道内6ヶ所でセミナーを開催したほか、④人材育成・確保の取組みとして、道立高校等への出前講座などを実施し、さらに、先ほどご説明いたしました⑤ビジョンの策定などに取り組んだところでございます。次に資料の右側ですけれども、関連インフラの整備としまして、次世代半導体工場へ用水を供給するために、この概要図の通り、必要な排水施設の建設事業に着手したところです。

次2ページ目をご覧ください。令和6年度、来年度の主な取組についてご説明いたします。来年度は、先ほどご説明しましたビジョン、こちらに沿って事業の展開をしていくこととなりますけれども、①半導体関連産業集積促進に向けましては、半導体に詳しいコーディネーターの配置により地域での産学官ネットワークの構築・強化や国内外を対象とした企業誘致、プロモーションに取り組んで参まいりますほか、企業立地促進費補助金など半導体関連分野で見直しを含め必要な検討を進めてまいります。また、②道内企業の参入促進に向けましては、今年度実施いたしましたセミナーについて、回数を増やして実施いたしますほか、道民の理解促進に向けて、今年度実施いたしました道民向けセミナーを14振興局、すべての地域で開催させていただきます。さらに、④の人材育成・確保に向けましては、今年度実施いたしました高校生向けの出前講座について、回数を増やして実施いたしますとともに、小中学生向けの体験教室、こちらを新たに、実施したいと考えております。

次に3ページ目をご覧ください。関連インフラの整備といたしまして左側でございますけれども、街路事業委託事業でございます。千歳市が整備する工事の一部を道が受託してまして、来年度は、道路や橋梁の調査設計などを進めることとしております。最後に資料の右側でございますけれども、苫小牧地区工業用水道配水施設建設事業についてですけれども、来年度は配水管の敷設工事は実施設計が終了した区間から、順次、進めてまいります。中継ポンプ場につきましては、今年の4月から5月をめどに、入札公告を行う予定です。なお、昨年7月に、本連携会議のもとに設定いたしました市町村ネットワークに関し、構成市町村等における半導体関連の今年度及び来年度の取り組みにつきましては、参考資料1ということでまとめていますので、後ほどご覧いただければと思います。以上です。

【土屋副知事】

ありがとうございました。続いて北海道経産局の取り組みについて、岩永局長お願いいたします。

【岩永北海道経済産業局長】

北海道経済産業局でございます。資料の2-2-1に沿ってご説明をさせていただきたいと思っております。経産省からは半導体関連の予算、それから、経産局が事務局を務めております北海道半導体人材育成等推進協議会の活動状況についてご紹介をしたいと存じます。

資料の1ページをご覧ください。半導体の関連の予算、まさに半導体関連の施策を遂行するために、この三つの柱での予算を取っております。過去3年で総額約4兆

円。この令和5年度の資料にあります令和5年度の補正予算でも合計約2兆円を計上しているところがございます。

次の2ページですけれども、その中でのラピダスへの支援ということになりますが、2022年度、23年度、合わせて、3,300億円の支援上限の研究開発プロジェクトを進めているという状況でございます。次年度の支援に向けてですけれども、今まさに、この有識者による研究開発プロジェクトの進捗、あるいは研究開発内容の審査が最終局面を迎えているところがございます。経産省として引き続き必要な支援を行ってまいります。

3ページ目以降ですけれども、まさに、道内の半導体の産業の発展に重要な柱の一つであります人材育成に関わるお話をさせていただきたいというふうに存じます。道庁あるいは千歳市、札幌市、それから道内の関係の産学官の幅広い機関にご参画いただく形で半導体の人材育成、それから半導体関連産業の取引の活性化という大きな二つの活動を柱とする推進協議会、これを23年、去年の6月に立ち上げたところがございますが、この発足から10ヶ月足らずというところがございますけれども、色々な具体的な進捗が得られているという状況でございます。

4ページがその構成機関ですけれども、立ち上げ当初は32の機関でございましたけれども、現在、これが59と倍近くに拡大しているという状況でございます。そして次の5ページですけれども、この半導体関連のあるいは電子デバイス関連企業を対象に調査をいたしまして、今後の人材の需要の見通しをまとめたものでございます。協議会でこういう取組をしております。2023年度、220人でありました道内の半導体関連企業の採用数、これが2030年には約630人ということで、現状の約3倍の採用をしていかなければならないということで、これが目標になってくるわけでございます。

6ページ目ですけれども、こういったこと受けまして、昨日ですけれども、この協議会の本会議、土屋副知事と横田市長にもご参加いただきましたけれども、人材育成確保ロードマップというものを取りまとめました。若年層にはものづくり、或いは科学の面白さの発信でありますとか、半導体業界のPRを幅広く行っていく魅力発信、或いは、大学・高専などの教育機関の半導体教育の充実を図っていく人材育成、そして、インターンシップでありますとか、中途採用支援をしっかりとやっていく人材確保。これらを長期的な視点で実施をし、北海道から安定的に半導体人材を輩出していくべく、北海道における半導体人材育成のプラットフォームとして活動していきたいと存じます。

それからもう一つの、この協議会の主要事業でありますのが、半導体産業の取引の活性化の活動ですけれども、資料2-2-2というのを、ご用意をしておりますけれども、北海道半導体・電子デバイス事業サプライチェーンマップでございます。これも新たに作成をしたものですけれども、道内外の半導体関連企業と取引を行っている道内企業、様々な工程ごとに整理をしたサプライチェーンマップを作成しました。全部で106社、117の事業所ということで、当初想定した数を超えるような状況になっているということが改めて確認をされたということです。企業情報を一覧化することで、道内の今後の取引の拡大ですとか、道内の中小企業の半導体産業への参入促進、或いは学生に参照してもらうことなども含めて様々な用途が考えられるところで、これをベースにしっかり情報発信をしていきたいと思っております。

7ページ、8ページ目ですけれども、取引拡大という意味では、協議会が事務局となりまして、道内の企業同士のビジネスマッチングを実施いたしました。半導体の発注企業3社に対して、事前の想定を超える数になりましたけれども、78社から相談の申し込みがありました。選考を行った上でそのうちの35社が参加する形で、設備のメンテナンスですとか、或いは業務改善のためのDX提案などが、幅広い商談が行われたところです。実はこのうちの78社のうちの約3割強、28社がこの半導体企業とこれまで取引の

実績が無かった企業ということで、まさに、期待の現れだというふうに考えております。一方で78社の大半が実は道央圏の企業でございまして、今後、北海道庁はじめ皆様方と連携しながら地域企業への普及啓発をしっかりとやってまいりたいというふうに思っています。このように経産省としましても、次世代の半導体拠点整備のための施策あらゆる施策を動員しながら、皆様と協力を密にして取り組んでまいりたいと考えています。

【土屋副知事】

ありがとうございました。続いて、北海道労働局の取り組みについて、三富局長お願いいたします。

【三富北海道労働局長】

北海道労働局でございます。北海道労働局が所管する道内22ヶ所のハローワークにおいては、全国のハローワークとのネットワークを活用しまして、北海道をはじめ各自自治体とも連携をしながら、企業の人材確保や人材育成の支援を行っています。ラピダス社のIIM-1建設工事等に伴う個別企業の求人ニーズに対しましても、地元ハローワークが中心となって取り組んでいるところでございます。こちらの資料では、今年度実施いたしました取り組みについて、簡単にご紹介させていただきたいと思っております。

半導体関連産業の人材確保を進めていくためには、学生等を含めた求職者個々への企業や産業の魅力発信と、求人者・求職者のマッチング機会を広げることが重要と考えておりまして、本年度、企業説明会等を3回実施しております。まず一つ目はラピダス社の個別企業説明会でございます。令和6年3月新規大卒者や大学院生、高専の学生・生徒49名のほか、保護者及び学校関係者等を対象に半導体製造業界の現状や今後の展望、それから職種、職務内容や待遇等について、ラピダス社のご担当様からご説明いただいたところです。

二つ目はU・Iターンフェアでして、北海道と共催で東京都内にて開催しました。道内での就職を希望する方を対象とした企業説明会として、半導体関連企業3社を含めた道内企業50社にご参加をいただいたところでございます。最後は、千歳市並びに恵庭市に拠点を置かれる半導体関連企業の合同説明会でございます。ハローワーク千歳管内に活動拠点のある11社の説明会で、道外の大学生2名を含む27名の大学生・大学院生のほか、学校関係者など70名ほどが来られまして、参加企業のご担当様から企業情報等の説明をいただいたところでございます。説明会の開催等につきましては、これら3回の説明会の参加企業ですとか、自治体の方々からも要望をいただいておりますので、次年度以降におきましても、関係自治体や関係機関の皆様と連携を図り取り組んでまいりたいと思っております。

半導体の複合拠点の実現については、新規学卒者の道内就職ですとか、経験者採用の促進、それからU・I・Jターンによる北海道移住の促進に向けて、大きな推進力になると考えておりますので、労働局といたしましても、北海道の経済社会を支える道内企業の雇用の維持に込えられるよう引き続き取り組んでまいります。以上でございます。

【土屋副知事】

ありがとうございました。それでは北海道開発局の取り組みについて柿崎局長からお願いいたします。

【柿崎北海道開発局長】

北海道開発局でございます。資料がございませんので、口頭でご説明させていただきます。

ます。

令和5年度の取り組みといたしましては、皆様のご協力いただきまして、北海道開発事業の基となります第9期北海道総合開発計画、これを今月12日に閣議決定をすることができました。今般の計画では、北海道の強みを生かして北海道の発展と我が国の課題解決を図るため、食料安全保障を支える農林水産業の持続的な発展、観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり、地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現などとともに、本日の議題にも関係ございます地域の強みを生かした成長産業の形成というのを主要課題に掲げてございまして、これにつきましては、次世代半導体の製造基盤の研究、人材育成等の拠点形成に向けた取り組み促進、デジタル産業基盤であるデータセンターの立地促進などが取り組む施策として示されているところでございます。

北海道開発局といたしましては、成長産業を、交通・物流で支える道路ネットワークの整備、また、港湾空港の整備促進、そして成長産業を支える人材の生活環境の整備に関する地域への取り組みへのご支援、さらには、地域の安全安心を確保する流域治水の促進等々に努めてまいりたいというふうに考えてございます。

この方針に沿いまして、次世代半導体の製造拠点の円滑な稼働に向けまして、北海道様、千歳市様、関係機関と密接に連携いたしまして、開発局としてできること、最大限対応させていただきたいというふうに考えてございます。以上でございます。

【土屋副知事】

ありがとうございます。それでは北海道地方環境事務所の牛場所長からお願いいたします。

【牛場北海道地方環境事務所長】

私も口頭でご説明をさせていただきます。

まず、関係者の皆様のご尽力により、ラピダス社工場立地に向けた様々な取組が、着々と進んでいることに改めて敬意を表したいと思います。

さて、昨年、アラブ首長国連邦ドバイで開催されました国連気候変動枠組条約締約国会議で地球全体の温度上昇を1.5℃に止めるため、気候変動対策をすべての国が緊急に取り組まなければならないことを確認し、CO2排出量削減目標の強化や、再生可能エネルギーの導入拡大、省エネルギーの徹底など、気候変動対策のさらなる強化が世界全体に求められたということでございます。我が国では、ご承知の通り、GX基本方針等を踏まえ、GX・脱炭素の取り組みを推進しておりますが、環境省では、地域における脱炭素化を推進するため、2030年度までに、少なくとも100ヶ所の脱炭素先行地域の選定を目指しております。令和5年度までに全国39道府県95市町村の74地域が、うち北海道は6地域が選定されております。来年度も取り組みを継続し、今回は6月17日から提案募集を開始する予定でございます。地域におけるCO2排出量実質ゼロを実現する素晴らしい提案が道内から応募されることを期待しております。

他方、北海道は、国立公園を始め生物多様性保全上重要な地域が多く、それらの自然環境は主要産業の一つである観光の資源であると同時に、道民の命や暮らしを支える基盤でもあります。カーボンニュートラルの目標に向け、再生可能エネルギーの導入が進む一方で、自然環境への影響も懸念されていますが、地域における合意形成が図られ、環境に適正に配慮し、地域に貢献する地域共生型の再生可能エネルギーの導入促進が重要と考えてございます。

また環境省では、自然再興の観点から、事業者、民間団体・個人、地方公共団体によ

る様々な取り組みにより、生物多様性の保全が図れている土地を「自然共生サイト」に認定する仕組みを、令和5年度から開始し、すでに全国184ヶ所、道内10ヶ所が認定されています。来年度以降も、自然共生サイトへの参加も募りつつ、地域における脱炭素と自然再興の調和を目指してまいりたいと考えております。

最後に、本日、ご説明があった北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョンについて、環境省が目指す経済・社会・環境の統合的な向上に資する地域循環共生圏づくりと、大変親和性のあるものと認識しております。本ビジョンの実現に向けて、また、国立公園やラムサール条約湿地の保全管理を図り、これらの生態系サービスを生かした地域づくりに貢献できるよう、連携協力して参りたいと考えてございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【土屋副知事】

ありがとうございました。それでは千歳市の取り組みについて横田市長からお願いいたします。

【横田千歳市長】

千歳市長の横田でございます。皆様には様々な形で、日頃から大変お世話になっております。感謝を申し上げたいと思います。

資料2-4をご覧くださいと思います。まず当市につきましては、昨年2月のラピダス社による立地表明以降、組織体制を充実させるとともに、国や北海道をはじめ、関連企業などとの連携によりまして、今日まで様々な対応を進めてきております。特に重要となるインフラ整備につきましては、北海道経済産業局、北海道開発局及び北海道に量産に向けた用排水の対応や、新たな交付金制度の創設、さらには、事業調整等のご支援、ご協力をいただいておりますことについて重ねて御礼を申し上げたいと思います。当市といたしましても本年度は、債務負担行為も含めると120億円超の関連予算を計上して取り組んでまいりましたほか、1月に新たに開設をいたしましたラピダス社の千歳事務所へ職員を派遣するなど、今後におきましても、ラピダス社の操業に向けまして、地元自治体としてしっかりと、各種取り組みを推進してまいりたいと思います。

まずはインフラ整備の部分でございます。2ページに記載の通り、現在、各インフラ整備を進めておりますが、円滑な半導体工場の稼働に向けて、必要となる周辺道路の整備におきましては、実施設計を今年度終了したところであり、計画通り順調に進捗しております。半導体の製造に不可欠な水の確保におきましては、令和7年度のパイロットライン稼働に向けた水道整備を昨年から進めているほか、量産体制時の排水処理に対応できる下水処理施設の整備にも着手してまいります。

また、半導体関連産業の集積に向けましては、工業用地が不足をしております。JR南千歳駅の近傍の柏台地区に所在をする国有地を活用しまして、新たな工業団地の開発を進めて参ります。

資料3ページをご覧くださいと思います。千歳美々ワールドの中のインフラ整備について、お示しをしております。令和6年度は、周辺道路及び調整池等の整備のほか、先ほど道庁からもご説明をいただきましたが、JRこ線橋を36号線にタッチをするルート、これについては、道庁にもご協力いただきながら、今後、実施設計に着手してまいります。

資料4ページをお開きいただきたいと思います。上下水道等の整備及び先ほど申し上げました新たな工業団地の候補地についてもお示しをしております。令和6年度は、引き続きパイロットライン稼働に向けた水道管の布設を進めるとともに、汚水の圧送管及

び汚水ポンプ場の整備、下水道終末処理場の設備増設等を進めまして、新工業団地の開発準備にも着手をして参ります。これらの半導体製造拠点整備に必要な道路、下水道整備につきましては、国の新たな交付金制度を活用しまして、スピード感を持って進めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援のほどお願いを申し上げます。

次に、受け入れ環境の整備と地域経済振興に向けた取り組みということで資料5ページですが、まず半導体関連産業集積調査であります。昨年10月から11月にかけて、全国の半導体関連企業及びその取引企業4,000社に対して、道内への立地意向を確認するアンケート調査を実施しました。調査結果については、今後のまちづくりの検討材料とするとともに、企業ニーズに沿った効果的な誘致活動や民間開発の促進等に取り組んでまいります。

次に、名刺交換会ですが、ラピダス社の進出に伴いまして、立地企業の取引機会拡大を目的として、昨年、ラピダス社及び建設工事を担う鹿島建設株式会社との名刺交換会を2回開催しております。業種を問わず取引拡大を通じた地域経済の活性化に繋がることを期待しているところであります。次に居住支援のための連携ということで、昨年末、千歳の不動産業界2団体、千歳商工会議所、千歳市の4社により、千歳市内における居住等の供給に関する協定を締結いたしました。この協定はラピダス社を初めとした半導体関連企業の従業員等の居住支援を目的として、窓口の一本化による賃貸物件情報の提供、居住後の支援等の対応を行うものでありまして、企業の受け入れ環境整備を進めてまいりたいと考えております。

最後になりますけれども、現在、当市では、ラピダス社の立地等によるまちの変化と、将来像を示す、仮称であります千歳市将来ビジョンの策定に向けて、複数の分野において、組織横断的に議論を重ねております。喫緊では、先ほども申し上げている新たな工業団地の早期開発や交通インフラへの対応の他、中長期的には、教育、医療、外国人対応等について様々な角度からその影響と必要な取り組みなどについて検討しているところであり、本年12月には、お示しをしてみたいと考えております。これからも、大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。私から以上であります。

【土屋副知事】

ありがとうございます。それでは次世代半導体製造拠点整備の現在の進捗状況について、ラピダスの石丸ディレクターから説明をお願いいたします。

【石丸ディレクター】

ラピダスの石丸でございます。よろしく申し上げます。パイロットラインの進捗状況についてご説明いたします。次のスライドをお願いいたします。昨年の9月に着工し、半年強が経ったわけですが、現在のところ、建築は、オンスケジュールで進んでおります。これも北海道庁、それから千歳市、様々な方面のご支援のおかげだと思っております。誠にありがとうございます。

次に、建築状況等をトピックごとに説明をさせていただきます。次のスライドをお願いします。建築状況は写真の通り、2023年7月は何もない状態でしたけれども、9月の起工式、後にくい打ち作業が始まり、11月にくい打ち作業を終えました。そして、厳冬期の1月、2月を迎え、美々の工事現場はマイナス15度ぐらいになる中で、工事を予定通り進めるために、右の図のように採暖養生工法で工事エリアを一定の温度に保った上で、コンクリート敷設を実施し、施工スケジュール通り工事を進めることができました。次のスライドをお願いします。

これは3月21日に撮影した美々の現場写真でございます。真正面に見えるところが

ちょうどパイロットラインの外側の骨組みになります。それから、左側に少し低い部分がありますけれども、ここがクリーンルームの床にあたるということなので、半年の間にここまで工事が進捗しました。また、右側に白い低い建物が見えますけれども、特高変電所で、ここで受電する施設です。このように、順調に工事は進んでおります。次のスライドをお願いします。

それから工事中に多くの作業員の方が、現場を訪れるということで、周辺の住民の方への影響をできるだけ軽減するために、交通渋滞への対策を行っています。工事車両台数を1日のうちで平準化するように制御をする。それから美々の工事現場に入る道順についても、右折をしない。できるだけ左折で入ってくる。このような対策にて渋滞を無くす。作業員についても、マイカーで工事現場に来るのではなく、シャトルバスで運搬するという行っております。おかげさまで今のところ、渋滞は発生していないと聞いております。

次いで、環境への配慮ということで、コンクリートについても環境影響の配慮型のコンクリートを使用しています。これは高炉スラグを含有したコンクリートを使うことで、コンクリート製造時のCO2排出が減る。そのような、材料を一部使いながら、建築を進めております。次、お願いします。

日常業務の委託先決定については、北海道新産業創造機構（ANIC）様から色々なご支援を受けながら、左側の表に示しているような業務についての委託先を選定しております。今のところ準備に時間がかかる食堂とか、クリーニングとかそういうところを優先して選定をしております。昨年12月に応募の締め切りをしておりますけれども、その時に、272社の応募があったということで、ご支援に感謝する次第でございます。次、お願いします。

ラピダスの従業員が、来年のパイロットラインの立ち上げに伴って、転居をしてきます。それに向けて、ラピダス用の社員の住居を準備していただくということで、これもANIC様のご支援、千歳市内は居住支援助成プロジェクトチームを立ち上げていただいて、下図のようなご支援をいただいているということで、これから準備が進んでいくものと思います。大変ありがとうございます。次お願いします。

物流に関しましては、物流の取りまとめ会社3社を選定いたしました。この3社が、弊社のオーダーする材料や物資について、トータル的に、どの輸送経路がいいか、陸路がいいのか、海路がいいのか、鉄路がいいのかを設定して、効率的に弊社まで輸送をしていただくということになっております。図のように関西ターミナル、関東ターミナル、それぞれに物流業者様が設けたターミナルに集約をしてそれを弊社の倉庫まで運んでくる。そういう仕組みで効率的な輸送というのを実現する予定です。次お願いします。

新卒の採用について、おかげさまで、23年度の卒業生は10名を採用することができました。弊社としては大変スタートが遅かったですけれども、色々ご支援をいただき、おかげさまで、その内訳にあるように工業高校から三名、高等専門学校から二名。大学・大学院から五名を採用できたということで、大変良い結果であったと思っております。これで説明は終了です。ありがとうございます。

【土屋副知事】

ありがとうございました。以上、議事の1から3までの資料の説明等がございました。これまでの説明について、ご意見、ご質問等があれば、お伺いいたします。何かございますか。皆さんよろしいですか。それでは、知事からお話をお願いいたします。

【鈴木北海道知事】

はい。皆様本当に年度末のお忙しい中お集まりをいただき本当にありがとうございます。昨年2月末にラピダス社が本道への立地を表明いただいてから、およそ1年というところがございます。その間、国家プロジェクトであります当社の次世代半導体製造拠点の円滑な整備に向けて、この連携会議を始めとする道内の支援体制を皆様とともに構築をし、用水や道路など、必要なインフラ整備や、人材の育成・確保などに向けて取り組みを進めてきたところであります。先ほど石丸様からも、プロジェクトの進捗についてご報告をいただきましたが、順調に進んでいるということでご報告がございました。これは本当に関係者の皆様のこれまでのご尽力によるものでございます。私の立場からも心から感謝を申し上げます。

北海道では、ラピダス社の立地をトリガーに半導体の製造にとどまらず、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を目指して、その効果を全道に波及させたいと考えております。その実現に向け、オール北海道で共有すべき今後の取り組みの指針として、先ほどご説明をさせていただきましたビジョンを取りまとめたところでございます。本日は、関係機関の皆様からインフラ整備、人材の育成・確保、道内企業の取引拡大、新規参入に向けた、これまでの取り組みや今後の方向性、それぞれ、さらには、再エネ導入促進の重要性などについてご発言いただきました。それぞれの取り組みや考え方は、ビジョンと共有するものであります。改めて、目指す方向性が共有できるこのことに大変心強く思うところであります。今後、ビジョンの目指す姿の実現に向けて、各般の施策を戦略的に展開していきたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

この先人口減少が一層進行し、地域社会、そして経済が縮小するという状況の中で、道内各地域の持続的な発展に向けては、豊富な食や観光資源、再生可能エネルギーなど、各地域のポテンシャルを活かして、脱炭素化、デジタル化など、時代の変化で生じる国内外の新たな需要を取り込んでいかなければならないと考えております。特にGXやDXのこの分野につきましては、北海道は日本全体の発展に貢献する役割が期待をされています。そうした大きな視点のもとで、取り組みを進めていくことが、北海道の発展に繋がっていくと考えています。そのためにも、日本全体に視線を広げながら、道内各地域のGXや、DXのポテンシャルを生かして、道央圏だけではなく、全道域に効果を波及させていくことが必要であります。先日、閣議決定をされ、先ほどご説明をいただきました第9期北海道総合開発計画にも通じるものであると認識をしています。

最後になりますけども、ラピダス社が目指す、来年春のパイロットラインの稼働。そして2027年の量産製造開始に向けて、特に、来年度は重要な年であるということがございます。道としてはこうした考え方、そして理念について、皆様をはじめとする関係機関の皆様と協議をしながら、一層緊密に連携をして、引き続きスピード感を持って取り組んでいきたいと考えておりますので、今後とも、皆様のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。本日は誠にありがとうございます。

【土屋副知事】

ありがとうございました。以上で北海道次世代半導体産業立地推進連携会議を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。